

「離職ストップ!みなさんのいのち守るために賃上げを!」 10・9記者会見開催しました!

10月9日(水)に医療・介護労働者の賃上げ実態・看護師の離職状況・いのちまもるキャラバンの報告の世論喚起のため「離職ストップ!みなさんのいのち守るために賃上げを!」記者会見を開催しました。医療・介護現場から6名の訴えがされ、マスコミは6社の参加でした。



最初に勝野委員長あいさつの後、坂田書記長より、ベースアップ評価料の問題点、他産業と比べて医療・介護現場の周回遅れの賃上げの状況、看護師介護師不足の状況、6月の医療介護キャラバン行動で280ヶ所回中100以上の事業所で懇談ができたことなどが報告されました。

以下、現場からの訴え(要約)です。
フルバージョンは京都医労連YouTubeのQRコードリンクからご覧ください。

●民医労 立花さん

今でもコロナ感染の状況と対応は緊張感・疲労感が相当で、大変さは変わっていない。現在働いているスタッフからも疲れたし辞めたいという思いを聞くことがとても多い。看護は命と健康・生活を支える労働。看護師自体が人間らしく生きていくことが必要で、そのために看護の労働に見合った賃金と今の高齢化社会の医療度や介護度の実態に即した人員配置基準を国に要求したい。ベア評価料について、現場からは「同じ看護師で命と生活を支える現場は一緒なのに」という怒りの声。子育てしながら看護師を続けていくためにも賃金・労働条件の改善が必要。



京都医労連YouTubeリンク

●太秦病院労組 松岡さん



京都医労連YouTubeリンク

現場の実態は本当に過酷に。激務の中で疲弊し、やりがいを感じられず辞めていく仲間が増え続け、看護師の数は本当に不足している。患者さんに寄り添い、安心して療養生活を送り、病気と向き合えるサポートをしたいと願っている。そのためには、どうしてもマンパワーが必要。看護師確保にと今回の診療報酬にベースアップ評価料が創設されたが、各施設間で格差や不平等があり、看護師確保に全く結びついていないのが現状。看護師を増やすために、賃上げや労働条件の改善などの対策を本気で行っていただきたいと訴えていきたい。

●全医労京都 赤坂さん

新型コロナウイルス感染症は5類に移行したが、現場はとても厳しい状況が続いている。現場を去った仲間もたくさんいて、多くの現場で人員不足が常態化。私のように子育てをしながら仕事する看護師はたくさんいるが、育児時間の制度を利用していても、現実には仕事が終わらず、人員不足で夜勤も。医療労働者の賃金は他の仕事と比べてまだまだ低い。看護師はとてもやりがいのある仕事。いつまでもこの仕事を続けられるように、処遇改善の実現を求める。



京都医労連YouTubeリンク

●京都医労連 勝野委員長

就職して38年、病院の病棟で勤務し、同じ法人内の移動で老健、訪問看護、そして昨年からは診療所で勤務。訪問看護・診療所では夜勤がなく収入は5万円くらい減少。24時間対応で電話拘束あり、その対価は時給120円。休日や夜間に呼び出しがあり、出勤しても翌日は普通に朝からの勤務。コロナ禍の時は限られた病院などには補助金があり手当てがあったが、訪問のナースには1円もなかった。スタッフや家族が感染し、出勤できない人が増え、休日も勤務したが、幼児と1年生になったばかりの子供たちだけを家に残し、勤務していたスタッフに配慮できなかったことなどを思い出すとしんどくなる。

少なくない看護師が辞めていき、より人員が少なくなり、忙しくなり、そして疲れて辞めていく、この悪循環を絶たなければ、人々の命、健康、暮らしを守ることができない。ケア労働者の働き続けられる大幅増員、処遇改善、そのための早急な診療報酬、介護報酬の改定を求める。



京都医労連YouTubeリンク

●福祉保育労 増田さん

介護職員の処遇が未だに全産業平均では6~7万円低く、賃上げのためには介護報酬の大幅引き上げが欠かせない。職員からは「今の給料で働き続けていくことが不安」、「物価高騰で生活していくのがやっと」「1人で生活するのも大変。家庭を持つ、子供を生むなども躊躇する」などの切実な声が聞かれる。さらに深刻なのが人手不足の問題で、低賃金がそれに拍車をかけている。政府は現場実態を無視した政策を進め、最近では、ICT活用で人員基準の緩和を進めようとしているが、それでは人員不足の根本的解決にならないばかりか、介護の質を下げることになる。私たちは、利用者の生活と権利を守る介護という仕事に誇りを持っており、ここにはやりがいや喜びがあり、生きがいにもなっている。利用者の皆様にいいケアができるように、介護報酬の大幅な値上げを所望する。



京都医労連YouTubeリンク

●ふるさと医療福祉労組 松田さん

現場の職員が足りておらず、休憩時間でも利用者さんの対応しており、食事もまともに取れないも多い。夜勤者が夜勤明けに午前の入浴介助することも。休みの日は疲れで一日寝て終わりということも。こんな状況は本当におかしいし、職員が疲弊して体調を崩してしまうリスクが高い。現場は限界を超えているが、利用者様の安心と利用者様の笑顔を見たいという気持ちで日々の業務に取り組んでいる。人手不足の理由は賃金の低さにある。医療、介護の業界こそ、これから高齢者社会になっていく上で必要な業界だと思うが、他産業は大幅賃上げと言われる中、格差はさらに広がっている。このままだと人手不足はますます拡大し、大変な状況に陥る。人手を確保するため、職員の生活を守るため、業界全体として大幅な賃上げをお願いしたい。



京都医労連YouTubeリンク

参加者のみなさん、大変おつかれさまでした！



どの参加者からも、職場の切実な状況や、医療・介護の仕事が好きで働きたいという思いがリアルに訴えられました！

改めて、外に向けて発信することが大切と思えた記者会見でした！

【今後の取り組み】

- 「すべてのケア労働者の大幅賃上げと人員配置増を求める団体署名」

→11月の日本医労連対政府要請で提出

- 京都医労連統一行動

日時：2024年11月7日(木)

内容：三条河川敷で集会(15:30~)

サウンドカーデモ(三条大橋~円山公園・予定)